

経済建設常任委員会

他都市行政調査 実施報告書

熊本県山鹿市 11月14日 菊鹿ワイナリー構想推進事業について

1. 山鹿市の概要

人口：48,136人（令和6年9月末現在）

面積：299.67km²

合併：平成17年1市4町が合併し、山鹿市となり、現在に至る。



2. 視察の目的

本市は観光客が非常に少ないのが現状であり、夏のイベントである「JOINALIVE」には多くの人が集まるが市内の観光には結びついていない。しかしワイン醸造の取り組みが早くから行われており映画のロケ地になるなどしたが集客の中心とはなっていない。そこで先進的な取組をしている山鹿市の推進事業を今後の当市の参考にするため調査する。

3. 調査項目

- ①近年の集客状況について
- ②PR方法及び観光分野への波及効果について
- ③市民との連携に向けた計画について
- ④農林・観光事業者等、関係者の所得の推移について
- ⑤ふるさと納税への関係性について

4. 今後の展開について

山鹿市 菊鹿ワイナリーでは農地の活用と農家所得の向上を目的として試験的にワイン用ブドウの栽培に取組、10年の後、東京で開催された世界コンクールでの最優秀賞を契機に品薄になるほどの需要となり、地域の重要な地域資源となった。それを契機に行政と醸造会社、地域の生産振興会が相互協力体制を作り、「菊鹿ワイナリー構想推進協議会」を発足し、観光と農商工連携の地域活性に取り組んだ。醸造会社と生産者が管理するエリアと行政が管理するエリアを一体的に整備し、ワイナリーエリアでは物販やブドウ畑を見ながらの特産品を使った食事の提供で集客をして、行政が管理する交流エリアではイベントスペースの提供や家族で自然とふれあえる広場などを整備し多くの人に利用されているが週末以外の利用者数が課題となっている。当市には3つのワイナリーと5つのヴィンヤードが現在あるが、始まりの時期や場所等がそれぞれ違い、山鹿市のような一体的開発はすでに難しいが、地域ごとの特色を加味して、菊鹿ワイナリーの様な集客施設の考え方も出来るのではないかと考える。

経済建設常任委員会

他都市行政調査 実施報告書

福岡県柳川市 11月14日 柳川市ワーケーションプランについて



1. 柳川市の概要

人口：61,643人（令和6年9月末現在）

面積：77.15km²

合併：平成17年1市2町が合併し、柳川市となり、現在に至る。

2. 視察の目的

道内の一部の自治体において、ラビタス等の企業誘致が進んでいる中、当市においては誘致の実績が少ない現状にあります。企業誘致は、土地や交通の利便性等、物理的な要素に左右され、すぐに効果が出てくるものではありません。その中、柳川市においては、企業誘致ではなく、ワーケーションの観点からワーカーの流れをつくる取り組みを始めており、その取り組みについて学ぶべく視察を行いました。

3. 調査項目

- ①本事業実施の経緯（県境整備等含め）、予算、実績、効果等について
- ②相談体制について
- ③県外企業の参加状況について
- ④これからの企業誘致の課題について
- ⑤企業がワーケーションを導入することにした決め手について
- ⑥地元企業の意識の変化について

4. 今後の展開について

柳川市の資源を活用し、地元企業の協力のもとワーケーションプランの作成を行い、福岡県の審査会において最優秀賞を受賞しましたが、市からこのプランの提案に対して、実際に取り入れる企業は現在のところありませんでした。民間企業で独自に実施している可能性はありますが、企業からの反応を踏まえ、柳川市においてはサテライトオフィス誘致等への方向転換の必要性を感じているとのことでした。

福岡県のお市では、成功している自治体もあるが、稀であるとのことで、資源の活用と発信の重要性を感じました。また、需要と共有の一致も必要であり、遠方でのワークを許可する企業も多くなく、その取り組みをしている企業にどのように情報を届かせるか、また、フリーランス等にどのようにアプローチできるかが大切であると考えます。

この取り組みに関しては、過去に、一般社団法人岩見沢市観光協会が、「そらちワーケーションガイド」の作成をしております。まち全体で取り組みまでには至らずに終わっています。

これらを踏まえ、企業誘致、また、ワーカーの流れをどのように作っていくか、時代の変化を十分に考慮して、現在の施策をより良い施策にできるよう議論していくことが必要であると考えています。

経済建設常任委員会

他都市行政調査 実施報告書

福岡県大牟田市 11月15日 大牟田市まちなか活性化プランについて

1. 大牟田市の概要

人口：104,996人（令和6年10月1日現在）

面積：81.45km²

2. 視察の目的

先進地のまちなか活性化施策を視察し岩見沢市においてどのような取り組みができるか考える。

3. 調査項目

- ①大牟田わかもの会議の活動状況について
- ②タウンマネージャーの選定方法や業務内容について
- ③計画策定後の中心部のオフィス・事業所の推移について

3. 今後の展開について

大牟田市においては調査項目について積極的に行っている。

特に大牟田わかもの会議は15歳から39歳までの様々な年代で構成され基本的に自主性に任せて積極的に活動している。これらの活動はわが市においても更に発展させることが肝要と考えます。

まちなか活性化の面積は岩見沢市の中心部に比して広い範囲でありわが市においては今後どのようにまちなか活性化を充実させていくかが課題であると考え。例えば駅前広場に夏季期間にキッチンカーによる常設の食品販売等を行うことで中心地活性化につなげることは可能ではないかと考えるが、地域性等条件が異なることから今後の検証が必要と考えます。

